

# 令和2年度 年間教科シラバス

中学・高校	高校	学年	3年					
教科	保健体育		科目	体育		単位数	3	
担当者	1組	菊池博和	2組	永井孝裕	3組	和田太郎	4組	和田太郎
教科書				副教材				

## ○学習到達目標

- ・自分の体力・筋力レベルを知り、高校3年間の目標設定を行う。
- ・基礎体育の授業を基に集団の中での各個動作の習得・実践ができるようになる。
- ・高校生として基本的な体力をつけ、規則正しい生活ができるようになる。
- ・各個動作・集団行動で学んだ能力を生かしながら集団スポーツができるようになる。

## ○教科道徳教育到達目標

体育実技を通して通じて公平・公正な態度(スポーツマンシップ)・礼儀作法を身に付ける。そして、自己の健康への関心を高めさせ自分で体力を高める意識を育てる。また、学校生活全般や、社会人として必要な規範意識を身に付けさせる。

## ○学習方法

体育の授業は、グラウンド・広石グラウンド・体育館・武道場等を使用して行う。授業方法は单元ごと(競技ごと)で異なるが、授業の中で、グループワークやディベート等を行いながら、運動技術の向上や、主体的に学習向かう態度を養うことを目標とする。

## ○グレード別授業の基準

クラス別で実施

## ○指導計画(学習内容・考査等の予定)

- 6月 スポーツテスト
- 7月 バレーボール
- 8月 バレーボール
- 9月 球技・器械運動・陸上競技(選択)
- 10月 球技・器械運動・陸上競技(選択)
- 11月 球技・器械運動・陸上競技(選択)
- 12月 球技・器械運動・陸上競技(選択)
- 1月 体育理論

### 技術テスト

- 7月中旬 バレーボール技術テスト・ルール等確認テスト
- 12月初旬 選択種目ごとの技術テスト(ゲーム評価中心)

## ○評価方法

各学期ごとに、技術評価を含めたルーブリック評価を行い、学期成績を算出し、すべての学期成績の平均を学年成績とする。  
(技術評価を含むルーブリック評価 100%)

※ルーブリック評価観点表は別紙参照

観点	評価段階	A	B	C	D
	評価項目				
知識及び技能	技術テスト 技術テストの評価項目については単元ごとに設定する。	80%以上の評価	65%以上の評価	50%以上の評価	50%以下の評価
	技術確認再テスト	他の生徒と教え合うなど、工夫して練習を行い、再テストに臨んだ。その結果、80点以上取得した。	工夫して練習を行い、再テストに臨んだ。その結果、80点未満であった。	再テストに向けて準備をした。	何も準備せずに再テストに臨んだ。
	競技特性やルールの理解 確認テスト	試合におけるルールや、運動の技術の名称や行い方について80%以上理解している。	試合におけるルールや、運動の技術の名称や行い方について65%以上理解している。	試合におけるルールや、運動の技術の名称や行い方について50%以上理解している。	試合におけるルールや、運動の技術の名称や行い方について理解していない。(理解度50%以下)
思考力・判断力・表現力等	練習の行い方	自己の課題を分析し、適切な運動の行い方や練習方法を選択している。	適切な運動の行い方や、練習方法を選択している。	運動の行い方や練習方法を選択しているが、適切でない。	運動の行い方や練習方法について、選択しようとしていない。
	安全に対する理解	危険な行為を予測し、学習した安全上の留意点を練習場面で実践している。	学習した安全上の留意点を練習場面で実践している。	学習した安全上の留意点を練習場面で実践しているものの、適切ではない。	学習した安全上の留意点を練習場面で実践しない。危険な行為を行う。
主体的に学習に取り組む態度	学習態度	授業において他の生徒との協同の中心となり、全体の理解を深める役割を担う	授業において他の生徒と協同し、意欲的に理解し合う	授業において他の生徒と協同し、意欲的に理解し合おうとする	授業において他の生徒と協同し、意欲的に理解し合おうとしない
	授業中	各活動に積極的に参加し、分からないところがあれば質問、または調べたりしながら理解につなげようとしている。	授業中の各活動に参加し、理解しようとしている。	授業中の各活動への取り組み方が物足りない。理解しようという姿勢が乏しい。	授業中の各活動に全く取り組んでいない。